

# プロジェクトに求めるもの

## 1 研究プロジェクトの種類

### A 実践プロジェクト

地球環境問題の解決に向けた学術的研究の実施と社会における協働実践を通じて、人々の意識・価値観や社会の具体的なあり方の転換などの選択肢を構築・提示する。

### B コアプロジェクト

実践プロジェクトと緊密に連携し、社会との協働による地球環境問題の解決のための横断的な理論・方法論の確立を行う。

## 2 実践プロジェクトに求めるもの

### (1) 解決すべき地球環境問題およびプロジェクトが達成すべき目標の明確化

地球環境問題が独自の視点から明確に定義され、それに対するプロジェクトの目標が明確化されていること。

### (2) 研究提案に至る学問的・社会的背景

個別学術分野の発展状況、問題の社会的認識状況などを踏まえた提案であること。

### (3) 独創性

地球環境学にかかわる独創的なアイデアに基づき、地球環境問題の解決に資する新しい枠組みを提案し、既存の地球環境研究に新たな視点を提供すること。

### (4) 学際的統合

課題解決に向けて必要な学問分野を有機的に統合するものであること。

### (5) トランスディシプリナリティ

研究成果が学術コミュニティにおけるインパクトにとどまらず、地球環境問題の解決を促す可能性を持ち、社会の多様なステークホルダーと協働したプロセスを可能な限り取り入れた研究であること。

### (6) 国際的な射程と戦略

研究者や協力者の国際的ネットワークを視野に入れ、地域固有のテーマを超えた問題に深い関心を示し、研究成果を国際的に発信するといった方向性を有すること。

### (7) 既存の研究リソースの活用方法の明確化

当該の研究課題に関する豊富な研究リソースを活用した地球環境問題の解決への道筋を示すこと。

### (8) 実践プログラムへの貢献

実践プログラムのミッション達成に貢献すること。

### (9) プロジェクトの構造の妥当性

研究計画における諸要素の選択が適切であること。それらの諸要素と最終的な目標の関係が明確であること。

### (10) 計画の実施可能性

構成員の人選、研究組織、予算、研究リソースの活用、計画の進行、対象諸地域等については、当該プロジェクトを円滑に実施できることが明瞭に期待できること。

### 3 コアプロジェクトに求めるもの

#### (1)理論・方法論の必要性

地球環境問題の解決に必要な理論・方法論であること。

#### (2)理論・方法論の革新性

地球環境問題の解決に資する革新的な理論・方法論であること。

#### (3)これまでの研究リソースの活用

地球研や既存の地球環境研究のリソースが生かされていること。

#### (4)実践プロジェクトとの連携

提案する理論・方法論が複数の実践プロジェクトと協創可能であること。

#### (5)理論・方法論の活用方法

プロジェクトで構築される理論・方法論が地球研内外で活用されるものであること。

#### (6)コアプログラムへの貢献

コアプログラムのミッション達成に貢献すること。

#### (7)プロジェクトの構造の妥当性

研究計画における諸要素の選択が適切であること。それらの諸要素と最終的な目標の関係が明確であること。

#### (8)計画の実施可能性

構成員の人選、研究組織、予算、研究リソースの活用、計画の進行、対象諸地域等については、当該プロジェクトを円滑に実施できることが明瞭に期待できること。